

文芸 さくらがわ

俳句

【桜川市岩瀬「萩」俳句会】
水に灯の映るあたりを春といふ

鈴木 たか子(※)

下萌えや胸の焰を吹き起こす

小林 啓治

春立つや別れる人も逢ふ人も

萩原 勲彦

話す事為すこと多し春炬燵

小林 フク

黄泉の径明るく照らせ春の月

三代 みちよ

浮寝島たゆたふ波の譜となりて

藤田 凡鐘

ひそかなる盆梅の香の別れかな

若色 寿美女

春浅し一直線の飛行雲

金田 とう女

立春と聞けば心も温みたり

入山 ひろ子

日曜を待つて畦焼き始まれり

渡辺 いし

昨日より今日の眩しく梅開く

細谷 充女

蒼天に梅三千の香をひろげ

永瀬 ちい

師の机そつとそのまま春立てり

萩原 きしの

【茂山俳句会】

ボックリと逝くが望みのチャンチャンコ

宮本 芳江

着ぶくれて母の形見に守らるる

鶴見 菊江

凍て解けぬままの一日でありにけり

松崎 いま

未明降る雪の暗さを誰も知らず

井坂 洋子

藍囊の華ふんわりと日脚伸ぶ

君島 真理子

野の匂ひ風かたくとも日脚伸ぶ

田崎 信子

水煙のかがやき増して日脚伸ぶ

竹林 てる

初便りさりげなく書く友のこと

海老沢 幸子

凍て星の果て凍て星が輝けり

植田 祥雲

入試終ゆ昨日叱りし子と街へ

笠倉 陽子

日脚伸ぶコーヒー香る湖畔亭

吉原 秀子

日脚伸ぶ三時の時報鳴つてをり

鈴木 ノブ子

酷寒も心和める句座温し

大関 くに

日脚伸ぶ昨日のひとと今日もあふ

海老沢 静夫

龍昇る炎の勢いどんと焼き

今井 繁子

兄が出て父来てどんと建ちあがる

飯山 昭

【二般投稿】

水戸発の車窓に園の梅見ゆる

木下 善信

俚謡

【さくら俚謡会】

わかれ言葉は聞かないふりの傘にとけてく
春の雪

稲葉 建正

月のうさぎも餅つきなさる春の草餅俺も搗く

つく志 輝美

伸びる経済暴れる黄砂日本泣かせる春嵐

田 哲人

※鈴木たか子さんは1月31日に逝去されました。

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ